| キウイフルーツ「ヘイワード」の大果生産のための夏季の環状剥皮法 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ［要約］キウイフルーツでは６月下旬から７月下旬の間に２回，主幹部に環状剥皮を実施すると無処理に比べ25～30％果実が大きくなる。剥皮の幅は5～7.5mm程度がよい。 | | | | | | |
| 長崎県果樹試験場・落葉果樹科 | 専門 | 栽　培 | 対象 | 果樹類 | 分類 | 普　及 |
| 平成８，９年度長崎県果樹試験場業務報告 | | | | | | |

［背景・ねらい］

キウイフルーツ果実の大きさによる価格差が大きく，大果ほど高値で取り引きされている。果実肥大を促進する方法として植物生長調節剤を利用する方法があり，実用化されているが，糖度や貯蔵性が低下する欠点がある。そこで，果実肥大促進を図る方法として，現地で導入されつつある夏季の環状剥皮の技術を確立するため，剥皮時期と回数，剥皮幅を検討し，実用性を明らかにした。

［成果の内容・特徴］

①剥皮によって果実は25～30％大きくなるが，剥皮の回数は２回と３回で果実肥大，品質に対する効果は変わらない（表１）。また，剥皮時期が６～７月の間であれば剥皮時期による果実肥大，品質の差は見られない。

②剥皮幅による差は果実肥大では見られないが，糖度は剥皮幅が広い方が高くなる（表２）。

③剥皮部のカルスの形成は，剥皮20日後にも見られるが，ゆ合された状態になるには40日程度必要である（表３）。

［成果の活用面・留意点］

①環状剥皮は樹勢が弱った樹では樹勢低下を助長するので実施しない。

②正常な樹であっても着果過多の状態で環状剥皮をすると樹勢低下を引き起こす恐れがあるので，適正な着果量になるように摘果する。

③剥皮処理は最低20日以上の間隔をあける。また，主幹部に連続して上から下へ実施する。

④花腐細菌病の防除のために環状剥皮を実施した場合は，その剥皮部が完全にゆ合していることを確認してから実施する。また，実施するに当たって樹勢が低下していないか十分留意する。

［具体的データ］

表１　環状剥皮の時期及び回数と果実肥大，品質　（1996年）

| 剥皮回数 | 剥皮時期 6/20 | 7/10 | 7/30 | 果実重 (g) | 収穫直後 果肉硬度 (kg/㎠) | 糖度 | 酸含量 (g/100㎖) | 追熟後 糖度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ○ | ○ | | 133.3a[z] | 3.47a | 6.1ab | 2.42ab | 13.3a |
| 2 | ○ | | ○ | 131.2a | 3.41a | 5.8b | 2.49a | 13.1a |
| 2 | | ○ | ○ | 129.3a | 3.37ab | 6.4a | 2.52a | 13.7a |
| 3 | ○ | ○ | ○ | 129.2a | 3.47a | 6.1ab | 2.56a | 13.2a |
| 0 | | | | 104.1b | 3.20b | 6.1ab | 2.29ab | 13.3a |

[z] 縦の異なる文字間には5%レベルで有意差あり

表２　環状剥皮の幅と果実肥大，品質[z]　（1997年）

| 剥皮幅 | 果実重 (g) | 収穫直後 果肉硬度 (kg/㎠) | 糖度 | 酸含量 (g/100㎖) | 追熟後 糖度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2.5mm | 173.1a[y] | 3.14a | 8.1a | 2.24a | 13.1b |
| 5.0mm | 167.4a | 2.76b | 8.2a | 2.22a | 13.4ab |
| 7.5mm | 177.0a | 2.81b | 8.5a | 2.32a | 13.5a |

[z] すべての処理区でフルメット4ppmを散布
[y] 縦の異なる文字間には5%レベルで有意差あり

表３　剥皮処理とカルス形成程度　（1996年）

| 剥皮回数 | 剥皮時期 6/20 | 7/10 | 7/30 | 6/20 20[z] | 40 | 60 | 7/10 20 | 40 | 7/30 20 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ○ | ○ | | 1.5[y] | 4.0 | 4.0 | 3.0 | 4.0 | |
| 2 | ○ | | ○ | 2.0 | 4.0 | 4.5 | | | 3.5 |
| 2 | | ○ | ○ | | | | 3.0 | 3.5 | 3.0 |
| 3 | ○ | ○ | ○ | 1.0 | 4.0 | 4.0 | 2.5 | 4.0 | 3.0 |

[z] 剥皮後日数
[y] 0:まったくカルスなし　1:わずかにカルスあり　2:少しカルスあり
3:半分程度カルスあり　4:ほとんどカルスあり　5:全面カルスあり

［その他］

研究課題名：キウイフルーツの高品質大果生産の実証
予算区分：県単
研究期間：平成９年度（平成８～９年）
研究担当者：林田誠剛，森田　昭
既発表論文等：平成８，９年度長崎県果樹試験場業務報告